井上馨（ゐのうへかをる）舊萩藩士、政治家。天保六年十一月二十八日周防國生れ、大正四年九月一日歿（一八三五―一九一五）。諱惟精、通稱勇吉・文之輔・志道聞多・井上聞多。變名世界庵聞多、今出頭八、奈良屋文七、山田新七、春山花輔、高田春太郎。號二猿、世外、世外老叟。藩黌明倫館ニ學ぶ。維新後新政府參與、六年辭職して生收會社設立、八年政府ニ復歸し、翌年日朝修好條規締結。のち參議兼工部卿、外務卿。十八年以降外相、農商務相、內相、藏相歷任。四十年侯爵。

著書『井上農商務大臣ノ談話 ワグネル氏ノ工業ノ方針』（明治二十一年十月二十日大臣隨行員序、無刊記）、『伊藤井上 元老直話 維新風雲錄』（內題「春世 一老 維新風雲錄」末松謙澄編、明治二十二年十月十一日哲學書院。再刊―伊藤博文 井上馨 元老直話『維新風雲錄』同編、四十四年九月二十日福岡書店）等。

文獻、中原邦平編『井上伯傳』全七冊（明治四十年五月二十八日中原邦平刊）、『井上伯傳附錄』全二冊（明治四十年五月二十八日中原邦平刊）、伊藤痴遊著『明治元勳 井上侯實傳』（明治四十一年十二月二十一日博文館）、『別府潛伏時代及其前後の井上侯』（昭和八年六月二十五日別府市役所編刊）、邦光史郎著『波瀾萬丈―井上馨伝』（昭和五十九年六月二十五日光風社出版）等。